

## 市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月5日（火）18時30分～20時15分 ・大滝総合支所2階 会議室
所管部課名	企画財政部企画課
<p><b>【概要】</b></p> <p>&lt;出席者&gt;</p> <p>市：企画財政部長、健康福祉部長、大滝総合支所長、企画課長、財政課長、事務局（企画調整係）</p> <p>市民：10名</p> <p>1. 開会 2. 企画財政部長挨拶 3. 説明（別紙資料） 4. 意見交換</p> <p><b>【住民】</b></p> <p>救急搬送されると、室蘭に行くことになる。病院の不足は家族への肉体的・精神的・金銭的負担があり、年寄りに不便だけではなく若い人にとっても問題がある。里帰り出産をしようにも病院がないため伊達に戻ってくることはできず、子どものもとに親が出向かなければいけない。医療体制を整えて、住んでいる地域で診てほしいと思っている。今は安心して暮らせる地域ではない。</p> <p><b>【住民】</b></p> <p>死ぬまで安心して暮らせる街にして欲しい。地域に病院を作っても患者数が多くない為経営は難しいと思う。往診という形をとった地域に対するかかりつけ医の制度が欲しい。IT等を駆使してテレビ電話で診療や薬の配達システムをつくるなどして、在宅でも指示や治療が受けられるようにしてほしい。</p> <p>自分が特別養護老人施設で勤務していたときは、医者や薬局からの薬の配達システムがあった。そのようなことが地域住民も在宅で受けられれば良い。訪問看護や訪問ヘルパーの制度もあれば安心して暮らせる。人口が減少しても、安心して暮らせるまちづくりを目指してほしい。</p> <p><b>【住民】</b></p> <p>昭和46年に大滝村（当時）に転入し、診療所で約200人の患者を診てきた。当時は1名のドクターを配置し、病院に来られない患者の元に訪問診療として出向くこともあった。今は週1回先生が対応してくれていて、診療場所へは社会福祉協議会が車を出して送迎している。ただ、相当な人数を短時間で診断している状態である。</p> <p>大滝では、救急車の出動も多い。家の近くに受診機関がなく、相談できる人もいないため、具合が悪いと救急車を呼ばざるを得ない。以前の保健師訪問のような、専門家による病状の把握や相談体制等を整えた制度をつくってほしい。</p> <p>大滝村の頃から思っていたが、福祉施設はあるけれど住民に対する福祉サービスは充実していない。通院するにもバスを使わなければならなかったり、バス停まで時間をかけて歩いて行</p>	

かなければならなかったりと負担がある。今後高齢者が増えることを考えると、行政としてできることはまだあると思う。

#### 【住民】

どんどん住民が減っていき高齢化は止められない。それに伴い事業が廃止になったり施設が減ったりするのは仕方のないことだと思う。ただ、大滝区はカナダから先生を招いた義務教育を実施しており、今年度はカナダ側の事情で実施できていないものの、カナダとの交流は長く続けてきたことなので今後も続けて欲しい。この取り組みは成果を上げているので、市外に向けたアピールをしてほしい。

大滝村は伊達市と合併し、大滝村役場が大滝支所になったが、困ってもどこに相談してよいかわからない。特に災害時は、住民に対して何らかの説明があっても良かったのではないかと思う。電気やガスなど、いつまでに何が使えないのか、何が復旧するのかを知りたくても、問い合わせ先もわからない。大滝支所と伊達市の連携をきちんととってほしい。行政のサポートは必ず必要なので、大滝区の住民にも伊達市職員の顔が見えるような対応をしてもらいたい。

#### 【事務局】

カナダとの国際交流はできるだけ続けていきたいが、受け入れには住民側の受け入れ意思も必要である。

災害については、今年起きた台風の際に、災害対応について住民への周知が不十分であったことを反省した。災害時は、電力会社からの情報を得づらいこともあり、市独自の対応の方法を検討する必要があると感じている。大滝支所の職員に様々な専門性を持たせることは厳しいため、本庁の連絡体制を整え、何かあったときには本庁の専門部署が動くという体制で今後も行うことを考えている。停電が起きた場合でも対応できるように、基本的な連絡網は整備していく予定である。

大滝でも聴くことができる「コミュニティ FM 放送」は、災害時には避難情報や災害状況等を流すようにしている。

#### 【住民】

災害時の対応は去年の台風と同じようなことになると思う。自治会等地域の人たちで情報共有をして、協力して助け合うシステムを構築するのも手段だと思う。どこが1番大変な状況にあり、どこかの被害が少ないのかなど、住民自身が把握していると協力体制が自然にできるのではないかと思うが、現状では厳しいとも感じる。

#### 【住民】

登別では自治会組織の結束が強いが、大滝区は住宅が点在しているので、連携システムを構築するのは難しいかと思う。

#### 【住民】

第六次総合計画の中には、次世代エネルギー構想という再生可能なエネルギーについてのテーマがあったと思うが、これについての見直しはどうなっているのか。第七次総合計画の中で、同様のテーマがあがるならば視点を変えてみてはどうか。次世代エネルギーや自然エネルギーに特化するのではなく、もっと違う単位で考えて欲しい。エネルギーを自給することを伊達市がサポートする制度があればいいと考える。現在の風力発電や太陽光発電というような再生可能なエネルギー開発は、企業のためのもの（経済効率という観点で）のようで地域住民にとっては弊害だけが目立っているように感じる。地域のエネルギーに関するテーマが第七次総合計画内にあるのであれば、このような視点で検証して計画に活かしてほしい。

### 【事務局】

第六次総合計画が進む中で、次世代のエネルギー構想が出てきた。伊達市としては、エネルギーパークを通して伊達市には再生エネルギーがある、ということ年全国に発信するスタイルをとってきた。

里帰り出産については、病院は以前 24 時間で出産できるような体制をとっていたが、現在は出産に伴う事故が増えてきていることなどもあり、医療機関も医者自身も、産婦人科から手を引く流れができています。里帰り出産ではなく、両親が娘のいる地域に行ってケアしながら、急変の時にも対応できる医療機関に継続して通うことが、両親と娘にとっても良い時代が変わってきているのではないかと感じる。

病院については、深夜に対応する専門医がいないことでやむなく室蘭に行ってもらえることがある。二次救急病院の指定を受けており、緊急の処置や入院の必要がある患者を診ることになっている。その基準を超える患者（血管疾患や手術を必要とする疾患など）については対応することができないため、室蘭や札幌に行ってもらえることになる。

医者の配置や体制については、行政としてもできる支援をしていく。ただ、昔に比べると医者の数は減っており、医者の確保も難しい。

かかりつけ医については、現在準備しているところである。自宅や老人ホーム、グループホームなどで最期を迎えられるようなサポート（医療や介護）についても努力していく。IoT を活用した遠隔診療なども検討している。

西胆振の 3 市 3 町の医療連携を進め、患者本人が同意した場合は連携病院内で情報を共有し、病院をまたいで治療を継続することができるようにする。介護の事業所でも同様のシステムを導入する予定である。

大滝区では「大滝いきいき健診」を実施しており、診断結果に問題があった人には特定保健指導として、生活習慣や運動習慣等に関する相談受付を実施している。社会福祉協議会も電話サービスを実施しており、緊急通報サービスもある。高齢者の方が医療に関して不明な点、不安等があれば市の高齢福祉課や大滝区の社会福祉協議会に問い合わせしていただきたい。包括支援センターとも市は連携している。

### 【住民】

緊急通報サービスは、ある年齢に達したら利用できるのか。自己負担はいくらくらいなのか。

### 【事務局】

市が行っている事業なので、所得制限がある。対象は 65 歳以上の 1 人暮らしの方で、日常生活等に支障があって緊急時に近くに頼れる人がいない場合に利用できる。電話の回線使用料は本人負担で、ほかに月 700 円の利用料がある。

市としては、地域の人たちが住み慣れた地域で暮らし続けられるように今後も取り組んでいきたい。

### 【住民】

非常時や関心を持った時などに初めて情報を得るのではなく、普段から情報が浸透していることが大事だと思うので、人と人が助け合えるネットワークの仕組みを作してほしい。

大滝の魅力を旧伊達市の人たちに知ってもらうことも必要である。大滝が伊達の一部であることを旧伊達市の人たちにもっと感じてほしい。

季節限定で公営住宅に住めるようにするなど、大滝移住策を緩和してほしい。「wi-radio」も試したが、いまだに電波が悪く、ラジオを聴けるようになったことを知らない人もいます。広報による情報共有をしてほしい。

#### 【事務局】

広報を毎月出しているが、すべての情報を見ることは難しいと思う。福祉関係の情報も多く載せているが、市民が知りたがっている情報をピンポイントで届けることはできていないと思う。市民が必要とする情報をどのように伝えるかは現在調査中であり、情報提供に関しては新しい総合計画にも盛り込んでいく予定である。

#### 【住民】

風力発電の弊害で、健康被害が出ている。再生可能エネルギーの推進に伴って健康被害もたらされるのであれば、行政として居住環境を守るために条例等で規制をかけていくことも必要かと思う。特に大滝には風力発電事業があり、きっちりとしたガイドラインを設けて欲しい。

#### 【住民】

コミュニティの問題がある。第七次総合計画では地区別計画は立てないとなっているが、大滝に関しては市街地（旧伊達市）とは少し違うところがある。大滝の集会所は古くなっているが、市から財政がひっ迫しているため修繕費は出せないと言われた。市街地に比べ大滝区の自治会費は割高であり、集会所の修繕費を自治会で負担してほしいと言われても、会員数が少ないので住民の負担が非常に大きい。かといって集会所が使えなくなると地域のコミュニティが活動できる場が無くなってしまう。このままだと大滝の自治会は解散してしまうかもしれない。大滝のことは市街地とは違う視点で見てほしい。総合計画は大滝をはずしたものであってはならないと思う。

災害時は防災計画がしっかりできていれば対応できるはずで、住民への周知が1番重要だと思う。

介護・往診等の医療問題も多く、すべてを包括的に考え、総合計画の策定を進めてほしい。

#### 【事務局】

今までは「大滝のことは大滝の中で」という風潮があったと思う。新しい総合計画で地区別計画を大滝だけ作るとなると、その風潮が続くのではないかと危惧している。そのため、伊達地区の住民も大滝のことを考え、大滝の住民も伊達地区のことを考えてほしいという意図があり、地区別計画を作らない方針を固めた。

#### 【住民】

学校開放の体育館の使用実績はどうなっているのか。冬は暖房を使えないと聞いている。情報提供をして上手に使ってほしい。予約方法や利用方法、管理方法も統一してほしい。

#### 【住民】

義務教育学校への移行は、道内4例目だと思うが、単に小中学校が一緒になるという訳ではなく、魅力的であれば親子でこの学校に通いたいとなる可能性がある。新しい総合計画の中に大滝の義務教育学校を活かしたものを盛り込んでほしい。

住民の移動手段に愛のりタクシー制度があるが、大滝からは遠く利用は難しいと思う。大滝でも住民でサポートし合えるシステムとして、アメリカの「Uber」のような制度を考えて欲しい。

#### 【事務局】

「Uber」のような仕組みは、交通空白地でないと認可が下りない制度になっており、大滝の場合はバスがあるためなかなか認められない状況にある。ただ、交通課題については今後も対応を検討していく。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

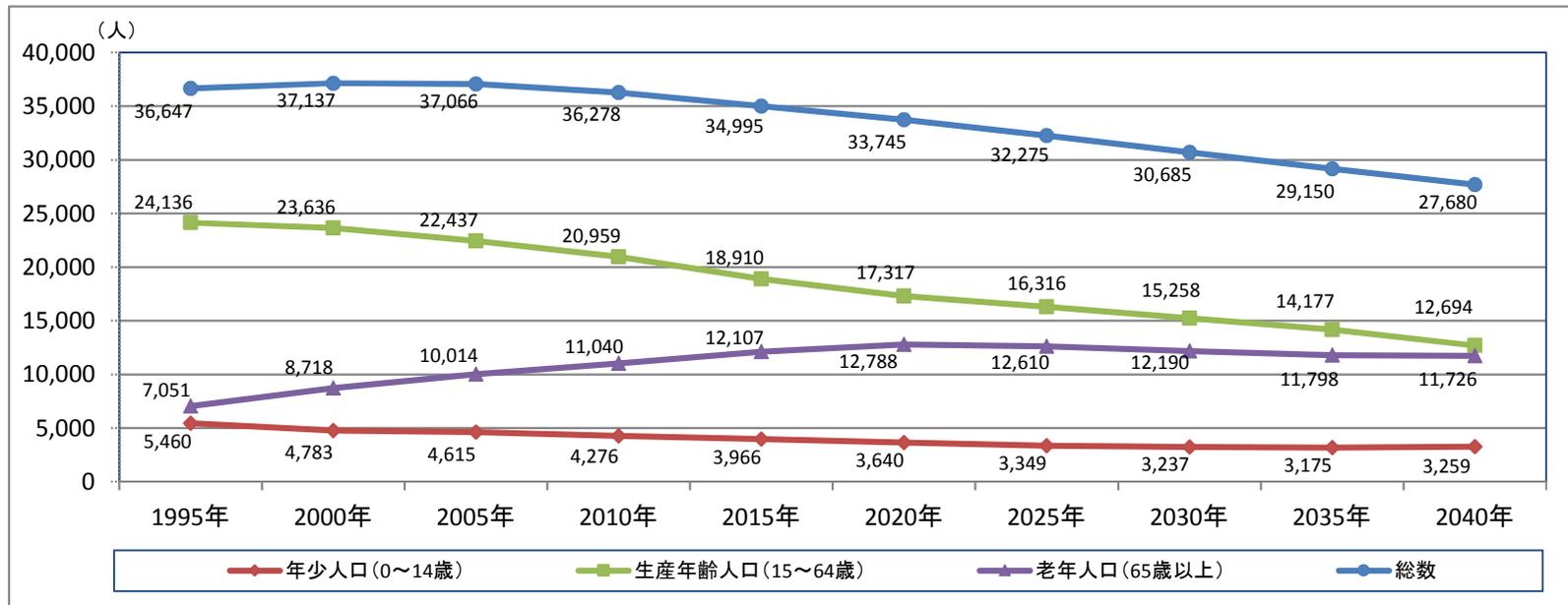
# 「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

## ■人口の将来展望

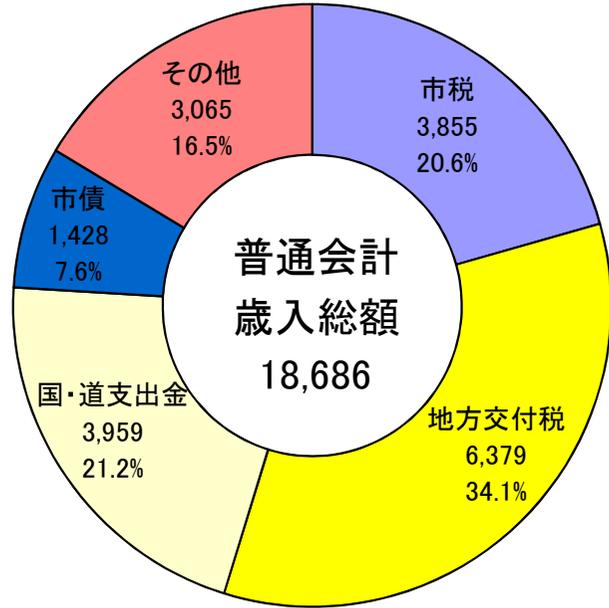
年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

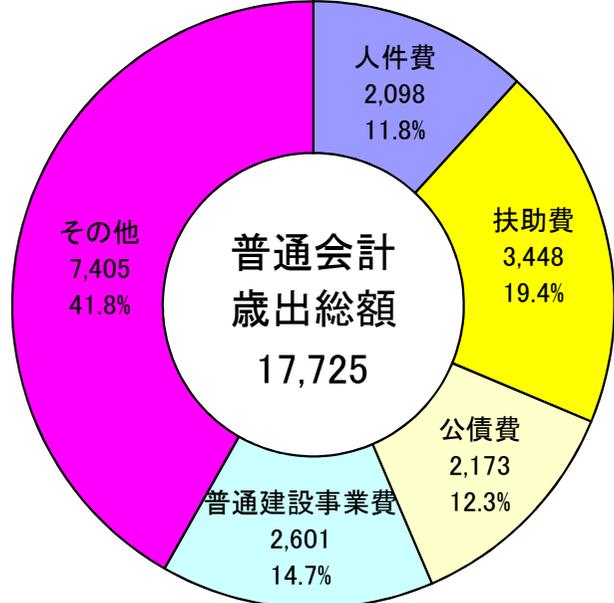


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

